

奈良県曽爾村と近畿大学農学部との連携について

連携の概要

- 近畿大学農学部
 - **奈良県内唯一の農学系学部**
(奈良市内にキャンパス設置)
 - 学生数：3,000名程度
(奈良県内最大規模)
 - 学部学科数：6
 - 大学院専攻数：5
- 奈良県曽爾村
 - 「日本で最も美しい村」連合にも加盟している自然豊かな山村
 - 人口：1,295名
(出典：令和2年国勢調査)
 - 標高：400m～450m程度
 - 主要産業：農業、観光業
 - 主要農産物：米、トマト、ほうれん草 等



出典：曽爾村観光協会WEB
(<https://sonimura.com/sightseeing/1/>)
(2023/6/21閲覧)

連携の経緯、これまでの主な連携活動

- 2016年頃
農業・食分野を中心とした連携について、曽爾村と奈良県内で唯一、農学系学部のある近畿大学農学部で協議開始
- 2017年
曽爾村内にて、**農業生産科学科の実習（夏期集中）**を開始
- 2019年
曽爾村・近畿大学にて**包括連携協定を締結**
- 2020～2021年
特産品の共同開発（曽爾村産の素材を利用した**トマトソース**）
- 2022年
ほうれん草レシピブックの共同制作
- 2023年
そののわCSAの共同実施を開始
- 継続実施／随時実施
 - 曽爾村内や奈良県内、近畿大学農学部（農学部祭含む）での**各種マルシェの共同実施**
 - 曽爾村での**援農活動・農業サポーター**
 - 「近大味めぐりおせち（近畿大学と近鉄百貨店のコラボおせち）」や農学部食堂・近畿大学附属病院での**曽爾村産食材の利用**
 - **各種研究活動**の実施
(フィールド調査・アンケート調査) 等



農業生産科学科の実習（夏期集中）の実施

- 科目名
農業実習（2017年度～2022年度）、
農業農村インターンシップ（2023年度～）
- 主な内容
主要農産物（トマト、ほうれん草、米）関連の農作業、
そののわの台所 katteでの加工・販売作業 等



特産品の共同開発 ： 曽爾村産の素材を利用したトマトソース

- 規格外品トマトの有効活用等を目的に開発
(きのこ当帰、柚子はちみつ)の2種類)
- そののわの台所 katteや、曽爾村農林業公社のオンラインストア、奈良市内の販売店等にて販売中



トマトソースが伝える曽爾村の新たな「味力」

曽爾高原の麓、寒暖差の大きな気候と豊かな水が育んだ味の濃い真っ赤なトマト。伝統野菜の大和当帰、ニホンミツバチから取れた希少な蜂蜜、ゆず、きのこ。このトマトソースに使用される材料はほとんどが曽爾村で採れたもの。曽爾村の豊かな自然の恵みを受けた食材を贅沢に使用しました。「曽爾の新たな食の魅力を届けたい」そんな思いがこの商品に詰まっています。

KINOKI TOKU
江戸時代から伝わる薬草「大和当帰」の風味をアクセントに、曽爾村産の柚子はちみつもはじめて使ったこの良感が楽しめる味にも良いトマトソースです。

YUZU HONEY
口いっぱいに広がる柚子の香りとニホンミツバチからとれた希少な蜂蜜の香きによって優しい味わいのトマトソースに仕上げました。



ほうれん草レシピブックの共同制作

- 曽爾村の主要農産物の1つであるほうれん草のPRのために、オリジナルのレシピブック（20レシピを掲載）を制作
- そののわの台所 katte等で、レシピブック掲載のメニューを使用した特製弁当を販売



そののわCSAの共同実施

- 近畿大学農学部の学生・教職員有志が「そののわCSA」の会員となり、曽爾村産農産物を前払い方式で共同購入
※大学単位でのCSA（地域支援型農業）は日本国内では先駆的な取り組み

